



コタンメール 47号

平成 21 年 9 月 25 日 発行



「アイヌ文化フェスティバル 2009」10月10日開催！！
(12時～、於白老コミュニティセンター)



スクワクルウタラ アリキキノ リムセ！（若者達一生懸命おどる！）

9月19日から21日にかけて、川沿生活館と高砂生活館を会場に、踊りの合宿を行いました。合宿に参加したのは、道内外から集まった15名で、これまで様々な形で歌や踊りに取り組んできた人々で結成された「Team NIKAOP(木の実)」のメンバーです。



この合宿の大きな目的は、上演される機会がほとんどなくなった「幻の芸能」を再現して、10月10日のアイヌ文化フェスティバルで公開することです。再現の手掛かりは、昭和初期に研究者達が学術用に記録した映像フィルムやレコードです。いずれも貴重な資料ばかりですが、映像のみ、音声のみの状態から芸能を再現することは容易ではありません。なるべく多くの資料を集め、これまでの研究成果を参照しながら再現に取り組みました。こうして再現した演目は「タップカラ(踏舞)」「エムシエリムセ(刀の舞)」「クリムセ(弓の舞)」です。刀と弓の踊りは現在でも多くの踊り手がありますが、映像の中のそれは現在見られるものとはかなり違っているため、今回は映像に従って踊ってみることにしました。

こうした再現演目のほか、白老ではあまり目にする事のないバツタの踊りや松の木の踊りなど、道東・道北地方の踊りもフェスティバルでの上演に向け練習しました。

(きたはら じろうた)



●女性たちによる旭川地方の鶴の舞



●2台のパソコンでそれぞれ映像と音声を再生し
演目の内容をチェック



ムックルハウ マンチウモシリ エシピラサ！（ムックルの音色、中国に広まる）

8月26日～30日にかけて、アイヌ民族博物館、観光協会、白老町職員からなる一行が、中国の上海・瀋陽で白老町の魅力をPRしました。現地の旅遊局や旅行会社等を尋ね、アイヌ文化の紹介を中心に誘客活動を展開しました。瀋陽では、オリンピックスタジアムで行われた観光振興の行事に参加し、5万人の観衆を前にイオマンテリムセを披露しました。29日には瀋陽故宮博物院の院長と対談し、清朝期の貴重な建築物の中でムックルやサロルンチカプリムセ（鶴の舞）、エムシリムセ（刀の舞）などを披露しました。

今回の中国行は現地のメディアでも取り上げられ、また民族衣装を着た職員はどこでも人気の的で、いたるところで記念撮影に応じました。アイヌ民族を強く印象付けるため全力疾走の5日間でした。



●瀋陽のオリンピックスタジアムにて



学芸員クネ オカ！（学芸員になりたい！）

学芸員資格の取得を目指す合田理恵さん（北海道文教大学）、新井田剛史さん（苫小牧駒澤大学）、西村健太郎さん（専修大学）が、8月31日～9月7日まで、当館で博物館実習を行いました。

行催事の準備・実施、体験学習指導法、資料展示など、短い期間での多岐に渡る内容は少々ハードだったかもしれませんが、若い学生たちは機転を利かせながら迅速に全ての業務をこなしていました。三人に実習後の感想を聞きました。

合田さん「学芸員の仕事は幅広いと言う事、視野が広くなければならないということを知った。この実習で得たことを今後活かしていきたい。」

新井田さん「大学で学んだことが、実際の現場では通用しないことが分かった。文化伝承施設でもあるアイヌ民族博物館の学芸員が果たす役割は、他館学芸員に比べて非常に大きいと感じた。」

西村さん「学芸員の仕事の多様性や博物館の今後、アイヌ民族を取り巻く環境など多くの問題を知り、考えるきっかけになった。」

一週間という短い実習で、学芸員の仕事の一端に触れるに留まりましたが、当館でしか得られない経験もし、それぞれの達成感が得られたようです。（きだみずえ）



展示・講演会のお知らせ



開催中～10月31日「こどもアイヌ語教室作品展」

子供たちの手作り絵本を映像・朗読とともに展示中。

10月3日～11月8日 赤阪友昭氏 写真展「The Myth-神話の記憶へ-」

アラスカ・カナダ・モンゴル・日本で撮影した先住民の暮らし。

10月3日 17時～19時 アーティストトーク&ギャラリーツアー

10月17日 千松信也氏 講演会「僕は獵師になった」

現役の若手獵師千松氏による講演。15時～17時。先着80名まで。